

グループとしてのCSRマネジメントを一層強化していきます

取締役執行役員 CSR統括部 シニアオフィサー
伊藤 順朗



日本の復興をめざして

東日本大震災によって被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地の1日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

未曾有の被害をもたらした今回の震災は、その被害の大きさと同様に人々の価値観にも大きな影響を与えました。私どもセブン&アイグループも自らの事業の使命や多くのお取引先様・地域・行政の方々を支えられていることを改めて強く認識いたしました。この経験を決して無駄にしないように、グループ内ではさまざまな形で記録を残し次代にも語り継いでまいります。本レポートにおいてもその一端を報告いたしました(P6~9参照)。

新たなCSR推進体制の構築

グループの事業領域や事業会社の拡大、従業員の価値観の多様化などから、CSRのグループシナジーの追求とさらなる深化が必要不可欠であると考え、2011年4月に社長直轄の組織として「CSR統括部」を新設しました。現在CSR統括部では、2010年11月に発行された社会的責任の国際規格である「ISO26000」や「経団連企業行動憲章(2010年改訂)」などを参考に、現状のCSR体制の課題を整理し、下記のとおりグループのCSR活動を一層効果的に推進するための取り組みを開始しました。

- 1) 持株会社としてグループ全体のCSR方針の明確化、未制定の方針の制定および社会環境の変化に合わせた既存方針の見直し
- 2) 持株会社と事業会社のCSRマネジメント体制の見直し
- 3) 事業会社におけるCSRを推進・統括する担当部署(または委員会)の設置
- 4) 各事業会社の事業の特性と社会的課題との関連性を考慮し、取り組むべき課題の絞りこみと課題解決のための事業戦略の立案
- 5) CSRを実行するにあたり、PDCAサイクルを意識し、グループ共通の数値目標などKPI(主要指標)の設定
- 6) グループ内でCSRの先進的な取り組み事例の共有

CSR情報の開示

本年のレポートは、これまでの事業会社ごとの編集から、取り組み内容ごとの編集に変更し、さらに各社の目標・実績一覧表と各取り組みの責任者の総評を載せることで、グループの方向性や一体感を一層ご理解いただけるよう工夫しました。個別の課題に対する取り組みのなかには、事業会社間で進捗状況に差があり、今後は新たなCSR体制のもと改善、推進に努めていきます。

またお客様の声を活かした各社の取り組み、海外事業会社の従業員の声や取り組みなど情報を充実させると同時に、環境・人事関連など定量的なデータについてはWebサイトで報告することで、印刷物としてのCSRレポートをより多くの方が手に取りやすいようにいたしました。

今後は開示する情報の正確性・客観性を確保するための第三者審査なども検討してまいります。

信頼される企業であるために

本業を通じたCSRの取り組みを実践するにあたり、社会的課題を強く意識した新しいビジネスモデルの開発やNGOとの連携など、ますます重要性が増すと思われます。グループ各社ならびに全従業員は、社是に掲げている「信頼と誠実」という一貫した考え・価値観のもと、ステークホルダーとのさらなる対話・連携を通じて「本業を通してどのように社会に貢献できるか」「どうしたら社会からの期待に応えることができるか」という命題と真摯に向き合い、社会と企業の持続的な成長をめざし、挑戦してまいります。

皆様のこれまでのご指導、ご鞭撻に深く感謝を申し上げますとともに、さらなるご支援を心からお願い申し上げます。

2005年	●CSR推進委員会発足
2006年	●グループ全国一斉清掃活動を開始
2007年	●「社会・文化貢献活動基本方針」、「社会・文化貢献活動行動指針」を策定 ●「お取引先行動指針」を策定 ●「お取引先専用相談窓口」を第三者機関に開設
2008年	●CSR推進委員会をCSR統括委員会に改称し、下部組織にコンプライアンス委員会と環境委員会を設置 ●「環境宣言」、「地球温暖化防止に関する基本方針」を策定 ●売上の一部が排出権取得に充てられるマイバッグをグループの店舗で販売。翌年日本政府へ排出権を無償譲渡
2009年	●グループが共通して取り組む「CSR重点課題」を設定 ●持株会社と5つの事業会社のCO ₂ 排出量データに関して、第三者レビューを実施 ●第三者レビューの結果を踏まえ、「グループ共通CO ₂ 排出量算定マニュアル」を策定 ●国内グループ従業員向け相談窓口を第三者機関に開設
2010年	●グループの人権啓発活動推進を目的に、イトーヨーカドーの「人権啓発室」を持株会社に移管 ●地球温暖化防止と生物多様性保全を目的に「熱帯林保全プロジェクト」をインドネシアで開始 ●セブンプレミアム15商品のカーボンフットプリントを試算
2011年	●CSR部門と社会貢献部門を統合した「CSR統括部」を新設

各社の情報は、以下のWebサイトでもご紹介しています(URLはCSR関連ページまたは、会社のトップページです)

- セブン&アイ・ホールディングス
<http://www.7andi.com/csr/index.html>
- セブン-イレブン・ジャパン
<http://c.sej.co.jp/corp/social/>
- イトーヨーカドー
<http://www.itoyokado.co.jp/company/profile/csr/activity.html>
- ヨークベニマル
<http://www.yorkbeni.co.jp/enviro/index.html>
- そごう・西武
<http://www.sogo-seibu.co.jp/csr.html>
- セブン&アイ・フードシステムズ
<http://www.7andi-fs.co.jp/7fs/company/csr.html>
- セブン銀行
<http://www.sevenbank.co.jp/corp/csr/>
- 7-Eleven, Inc. (英語)
<http://corp.7-eleven.com/>
- SEVEN-ELEVEN(HAWAII), INC. (英語)
<http://www.7elevenhawaii.com/home>
- セブン-イレブン北京 (中国語)
<http://www.7-11bj.com.cn/>
- 華糖ヨーカ堂 (中国語)
<http://www.ht-store.com/d/index.do>
- 成都イトーヨーカ堂 (中国語)
<http://www.iy-cd.com/>
- 王府井ヨーカ堂 (中国語)
<http://www.wfj-yokado.com/>



株式会社 **セブン&アイ** HLDGS.

CSR統括部

〒102-8452 東京都千代田区二番町8番地8

TEL. 03-6238-2448

<http://www.7andi.com/>



ユニバーサルデザイン(UD)の考え方にに基づき、株式会社モリサワが開発したより多くの人に見やすく読みまちがえにくいデザインの文字を採用しています。



この報告書(25,790部)の印刷に利用される電力(1,453kWh)は、全てバイオマス発電で発電したグリーン電力でまかなわれています。



この印刷物は、日本水なし印刷協会、一般社団法人日本カーボンオフセットを通じ、温室効果ガス削減プロジェクト(自然エネルギー事業)によって削減されたCO₂排出権を購入することで、印刷物制作において排出されたCO₂を相殺しています。



CO₂総排出量の内訳はこちらからご覧下さい。



本報告書は、環境に配慮したFSCTM認証紙を使用し、植物油100%のインキを使って、「水なし印刷」で印刷しています。